

# 病院総合診療医

～その重要性や役割を語る～

紙上座談会

複数の疾患を持つ患者や症状の原因が不明な患者などを、高度な知識で診断して的確な医療を提供する、「病院総合診療医」の重要性が高まっている。日本病院総合診療医学会理事長で、原土井病院九州総合診療センター長の林純氏、佐賀大学医学部附属病院院長で総合診療部教授の山下秀一氏、大分大学医学部総合診療・総合内科学講座教授の宮崎英士氏、福岡大学病院総合診療部教授の鍋島茂樹氏、九州大学病院総合診療科准教授の古庄憲浩氏に、病院総合診療医の役割と重要性について語り合ってもらった。

**患者の幅広い症状に対応 原因を追究し最善の治療を**  
 —まず、「病院総合診療医」とは何か教えてください。



日本病院総合診療医学会 理事長 **林 純**氏  
 (原土井病院九州総合診療センター長)



佐賀大学医学部附属病院 総合診療部 病院長 教授 **山下 秀一**氏



大分大学医学部 総合診療・総合内科学講座 教授 **宮崎 英士**氏



福岡大学病院 総合診療部 教授 **鍋島 茂樹**氏



九州大学病院 総合診療科 准教授 **古庄 憲浩**氏

**林** 端的に言うと、どのような疾患、どのような病態の患者さんでも診察し、救急医療も行い、診断がついていない患者さんに対し、速やかな診断ができる医師のことです。医療の専門化・細分化が進むのに伴

い、昔の町医者のように、1人で患者さんの全身を診察できる「総合診療医」の必要性が高まっているのですが、その中でも、かかりつけ医や専門医と連携し、ある程度の専門的治療も行える、病院総合診療医の役割が大きくなっています。

**山下** 佐賀大学病院は、国内の国立大学病院の中で最も早い時期から「総合診療科」を開設しています。初代学長が、「赤ひげ」を育成して地域に根ざした医療を実現させることを志したのが、もともとの開設理由です。

そのため、発足時は一般内科でしたが、それが発展し、現在のウオーケイン救急も受け入れる診療科になっています。

**宮崎** 大分大学の場合は、紹介状を持たない患者さんの初期診断を行う部署として2000年に総合診療部が開設され、その後、総合診療・総合内科となり、総合診療に加えて呼吸器やアレルギー、老年病、内分泌代謝などの内科的専門診療も行っています。

**鍋島** 福岡大学病院は、研修医への教育という観点から救急外来や救急隊からの患者さんを広く受け入れている点が大きな特徴。「断らない医療」が、福岡大学病院病院総合診療部の重要な役割です。

**古庄** 九州大学病院の場合、複数の疾患を抱えているときや診断がつかなく、かかりつけ医から患者さんを紹介していただくことが主です。また、不明熱などの原因不明の疾患の患者さんなども九大病院内の他科から紹介され診療します。

## 高度で複合的な診療で患者さんの全身の管理

—病院の総合診療科でなければ出来ないことはありますか。  
**山下** やはり、緊急入院が必要な重症の患者さんでも、迷わず受け入れることです。

世間では、総合診療医を「19番目の専門医」と言っていますが、プライマリケア医は、大学病院や基幹病院以外でも増えています。重要なのは、重症患者さんでも受け入れ、非常に専門的な治療が必要な場合を除き、大半の治療をこなせる総合診療科ではないでしょうか。

**鍋島** 間違われやすい症状を正しく診断するのも、病院総合診療医でな

ければ難しいことかもしれません。

例えば、関節の炎症が長引いた場合、患者さん本人もかかりつけ医も、整形外科領域の治療が必要だと考えるでしょう。しかし、病院の総合診療科ですら、全身症状の一つだった……などのケースが少なくありません。

**宮崎** 「複合的な診療」も、病院の総合診療科だからこそできることと言えます。

当科は、十数年前に「物忘れ外来」を開設しましたが、受診する患者さんの多くは、骨粗鬆症をはじめ加齢による様々な疾患を併せ持っています。そのため、物忘れに関する専門診療と同時に、いわゆる「老年病」全般への治療も総合診療科が行っています。

**林** 複数疾患を持つ高齢患者さんに対して、薬の種類を「整理」してあげるのも、病院総合診療医の役割。

たくさん種類の薬を長期間服用している高齢患者さんの場合、それぞれの薬の「まれにある副作用」が相乗的に現れ、思いがけない症状が出てくるケースが少なくありません。本当に必要な薬だけを選んで処方するためには、高度な診断能力と豊富な専門知識が必要です。

**古庄** 私どもの総合診療科ではHIV(エイズウイルス)感染症患者も担当しています。HIV感染症は、診断される前に、肺炎や消化性疾患に罹ることや発見される場合が多く、呼吸器科や消化器科から当科に紹介されます。HIV感染症は、感染症、悪性腫瘍、腎症、神経疾患、心疾患、内分泌疾患など様々な病気を合併するため、総合診療医として患者さんの全身管理を学ぶことができます。

## 地域完結型医療の中心的役割を果たすために

—「地域包括ケアシステム」構築に向けた動きが進んでいます。その中で病院総合診療医の役割は。

**林** 地域包括ケアの要となり、地域における総合診療を向上させること、予防医学を実践して、健康な長寿社会造りを目指すことも、病院総合診療医の重要な使命です。

持病があつて、具合が悪いところも複数あるので、どの診療科に行けば良

いか判らない……といった高齢患者さんは、今後ますます増えていくでしょう。遠慮なく、病院の総合診療科を受診してもらいたいと思います。

**山下** かかりつけ医の皆さんにも、患者さんの診断や治療に関して不明なことや不安なことがあれば、いつでも病院総合診療医に声をかけていただくよう、呼びかけていかねばなりません。

開業の先生方と病院総合診療医とが、より密接な関係を築くことが、地域完結型医療を実現させる上で非常に重要です。

**古庄** 総合診療医は、患者さんの生活支援をサポートできるように医療に関わる必要があります。特殊な治療は出来ないまでも、病院総合診療医は、かかりつけ医や介護施設と連携して、身体も心も全てを診るつもりで診療に取り組んでいます。そのことを広く一般の方々に知っていただきたいと思っています。

**宮崎** 病院総合診療医は、広い範囲での診療能力を有すると同時に、各医師の得意領域では、専門医に遜色ない診断・治療能力を持っています。安心して受診していただければと思います。

**鍋島** 大学病院の総合診療科の場合、若手医師の教育を通じて地域医療に貢献することも、重要な役割の一つといえます。

福大病院では医学部の5、6年生を対象に、総合診療科や救急外来の現場で学ばせる「ヘッドサイド・ラーニング」を実施していて、幅広い角度から診断内容を検討する習慣を身につけています。こうした教育活動により、地域における医療の質を高めていきたいものです。

